

# 令和5年度 学校マネジメントシート

学校名（ 松阪あゆみ特別支援学校 ）

## 1 目指す姿

(1) 目指す学校像		自立と共生 ～地域で豊かに生きる子どもを育てます～
(2)	育みたい 児童生徒像	<b>4 H（児童生徒の力）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ HEALTH（すこやかな体）</li> <li>・ HEAD（まなびいかす力）</li> <li>・ HEART（おもいやる心）</li> <li>・ HOPE（ゆたかな希望）</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<b>4 W（教職員の取組）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ HEARTWORK（心に寄り添う指導）</li> <li>・ TEAMWORK（確かな協働）</li> <li>・ FOOTWORK（率先した行動）</li> <li>・ NETWORK（地域との連携）</li> </ul>

## 2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;児童生徒&gt; 学校卒業後の社会参加に必要な力を育む教育の提供</p> <p>&lt;保護者&gt; 一人一人の障がい理解と確かな教育の展開、社会に対する障がい者理解につながる様々な啓発活動</p> <p>&lt;関係機関・地域&gt; 関係会議への積極的な参加や進路等に関する情報提供をする中での強固な連携、様々な活動の報告や物品販売、学校開放等の機会を通じて地域への理解を図る</p> <p>&lt;各学校等&gt; 松阪市・多気郡地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p>&lt;保護者&gt; 子どもの自己実現をめざすうえでの一番の理解者としての相談相手や支援協力者であってほしい</p> <p>&lt;各関係機関&gt; この地域の特別支援教育全般の牽引的役割を果たしてほしい</p>	<p>&lt;保護者&gt; 情報共有を密にし、共通理解したうえで「個別の教育計画・指導計画」を共に作成し子どもの成長につなげていくことへの理解と協力を求める</p> <p>&lt;各関係機関&gt; 子どもにとってより良い環境を確立するため強固な連携関係を築きたい</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の中で児童生徒が豊かに生きる支援のあり方として、トコトコネットワークの取組は大変有効的であるが、加入者が少ない点が課題である。</li> <li>・ 教員が問題をひとりで抱え込まない環境作りが重要である。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全教員が同時に授業を実施しているため、お互いの授業を参観する形態の研修を実施することは困難である。引き続き、授業改善につながる効果的な研修のあり方を検討していく必要がある。</li> <li>・ 児童生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう、起こりうる様々な危機を想定し、主体的・組織的に動く教職員集団になるよう体制を整える必要がある。</li> </ul>	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「トコトコネットワーク」への協力依頼や、学校の取組についての情報発信が弱い。「カフェトコトコ」の外部開放等を通じて、地域の学校への理解を促進し、地域とともに児童生徒を育てていく環境を整えていく必要がある。</li> <li>・教職員の働き方改革を進める必要がある。時間外在校時間の縮減に向け、各部、各分掌を中心に業務内容の精選を随時行い記録に残し、仕事の見える化、スリム化を図っていく。</li> </ul>
-----------	--

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別の教育システム」を活用して児童生徒一人ひとりの「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をより一層充実させ、児童生徒にとってより効果的な支援を行う。</li> </ul> </li> <li>2. 安全・安心な学校生活 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の命と安全を守る学習や訓練を継続して行い、安全・安心な学校生活を保障する。</li> </ul> </li> </ol>
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育を牽引する役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における特別支援学校としてのセンター的役割を果たす。</li> <li>・人権意識を高く持ち、地域と深くかかわる中で情報を発信する。</li> </ul> </li> <li>2. 信頼される学校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンスの向上に努め、保護者、地域等との信頼関係を築く。</li> </ul> </li> <li>3. 働きやすい職場づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営組織の中で全教職員が自分の役割を十分果たす。</li> <li>・教職員が意欲的に業務に取り組み、充実した毎日を過ごせるよう、情報共有する時間や環境を整備するとともに、効率よい会議運営を行うなど、働きやすい職場づくりを目指す。</li> </ul> </li> </ol>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 教育活動の充実	<p>(1) 学校教育目標達成に向けて、学校全体で「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アセスメントシステムの運用の定着を目指す。</li> <li>○小学部・中学部・高等部の教員による小グループでの授業研究を行う。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①小グループでの授業研究 年間4回実施</li> <li>②アセスメントの反映方法の検証、授業研究の成果と課題の整理（年度末）</li> </ul> <p>(2) 授業等においてICTを活用し、効果的な支援・指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活用事例をデスクネッツで共有し、支援・指導に活かす。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①活用事例の共有 年間30例以上</li> <li>②活用事例集の作成（年度末）</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①5月・6月・9月・10月・12月・2月実施（6回）</li> <li>②4月全体研修にて昨年度の実践の紹介を実施</li> <li>1月全体研修にて実践報告会を実施</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①27例 小学部9例 中学部6例 高等部12例</li> <li>②公開授業（12月）時作成、見学者に配付</li> </ul>	◎

<p>2. 安全・安心な学校生活</p>	<p>(3) 総合的・客観的に児童生徒の教育的ニーズを把握して支援・指導に活かすための「アセスメントシステム」の定着を目指す。</p> <p>○アセスメントツールを利用した、児童生徒の総合的・客観的な教育的ニーズの把握を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 「アセスメントシステム」の運用の定着</p> <p>② 「アセスメントシステム」の、「個別の教育システム」及び授業等への反映と活用、効果についての検証（年度末）</p> <p>(1) 自分及び他者の命と存在を大切にし、それらを守るために自ら行動する力を養う学習を行う。</p> <p>○人権教育カリキュラムに基づいた学習を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① ピンクシャツデーのメッセージ参加 230人以上</p> <p>② 性に関する学習の実施 各学部1回以上</p> <p>(2) 危機発生時等における児童生徒の命と安全を守るための学習及び訓練を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 地震・火災等の避難訓練の実施 4回</p> <p>② 災害伝言ダイヤル体験活用度 各回60%以上</p> <p>③ 交通安全に関する講習の実施 各学部年間1回以上</p> <p>④ 教職員対象の救急救命講習の実施 1回</p>	<p>(3)</p> <p>①小1・4、中1、高1の児童生徒の実態把握について太田ステージを活用した。</p> <p>②各学部でアセスメント還流会及び実践報告会を2回実施</p> <p>(1)</p> <p>①202人</p> <p>②小学部1回（初経指導） 中学部1回（初経指導） 高等部4回妊娠・出産、思春期、生命の大切さ、疾病予防について)</p> <p>(2)</p> <p>①避難訓練5月・9月・1月実施（1月非常食体験） 下校時訓練11月実施</p> <p>②6月64.4% 2月61.7%</p> <p>③小学部11月実施 中学部・高等部5月実施</p> <p>④夏季休業中オンラインにて実施</p>
----------------------	--	---

改善課題

1. 教育活動の充実

児童生徒に対して太田ステージを活用し実態把握を行った。研修会で、各学部でアセスメント還流会及び実践報告会を2回実施し、児童生徒の実態を的確に把握することで、効果的な支援につながることを確認した。

今後、教員間で児童生徒につけさせたい力を共有し、ICT機器を活用するなど効果的な授業を計画し実践することで児童生徒の成長につなげていきたい。

2. 安全・安心な学校生活

児童生徒が、互いに存在を尊重し合い、皆が安心して暮らすことができる社会を形成できるよう、引き続き人権教育に取り組む必要がある。本校の児童生徒にとって、予想できない状況に置かれたときに自分の身を守る方法を身につけることは、大変重要である。今後も避難訓練や、非常食体験、引き渡し訓練等、実践的な訓練を繰り返して実施し、児童生徒の命を守る取組を継続していく必要がある。

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 特別支援教育を牽引する役割	<p>(1) 地域支援として巡回相談、電話相談、体験研修、夏季講座等を実施するとともに、小・中・高等学校の教員がより相談しやすく、個々のケースに対応した支援を行うことが可能な相談形態を定着させる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 「あゆみなんでも相談会」の実施</p> <p>(2) 地域において本校の教育活動への理解と協力を仰ぎ、地域の中で児童生徒が豊かに生きるための支援につなげる。</p> <p>○「トコトコネットワーク」の加入募集を行う。</p> <p>○地域での作品展示を行う。</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 「トコトコネットワーク」新規加入 個人5件以上、企業等団体3組織以上</p> <p>【活動指標】</p> <p>①百五銀行、JR多気駅での作品展示</p>	<p>(1)</p> <p>①6月 6回実施 小学校4名、中学校2名が参加</p> <p>(2)</p> <p>①個人2件 企業3組織</p> <p>①百五銀行作品展示実施 5月、10月 JR多気駅作品展示実施 8月</p>	
2. 信頼される学校	<p>(1) 児童生徒、保護者、関係機関、地域の人々等との信頼関係を築き、児童生徒へのよりよい支援につなげる。</p> <p>○教職員意識調査「あゆみチェック」の結果を教職員全員で共有し、課題について検討し改善を図る。</p> <p>○学校の取組について、ホームページや報道提供により情報発信する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>①「あゆみチェック」の結果においてコンプライアンスを常に意識している教職員の割合 100%</p> <p>②コンプライアンスミーティングの実施 年2回</p> <p>③ホームページの更新 年12回以上 報道提供 3回以上</p>	<p>(1)</p> <p>① 5月 96.1% 11月 99.1%</p> <p>②8月・12月・1月実施</p> <p>③15回</p>	◎
3. 働きやすい職場づくり	<p>(1) 教職員一人一人が健康で、充実感をもちながら教育活動を行うことができる環境をつくる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 設定した日の定時に退校できた職員の割合 90%以上</p> <p>② 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 90%以上</p>	<p>(1)</p> <p>①90.8%</p> <p>②91.7%</p>	※

	<p><b>【成果指標】</b></p> <p>①時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人</p> <p>②時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人</p> <p>③1人当たりの月平均時間外在校等時間 10時間以下</p> <p>④1人当たりの年間休暇取得日数 15日以上</p>	<p>①0人</p> <p>②2人</p> <p>③5.0時間</p> <p>④22.0日</p>	※
--	---	---	---

### 改善課題

#### 1. 特別支援教育を牽引する役割

「あゆみなんでも相談会」は、放課後、オンラインを使って1対1で相手校の相談を受ける内容であるため、相手のニーズに合わせた支援ができており、今後も継続していきたい。

「トコトコネットワーク」に加入いただいた個人や企業から多く助けていただいている。今年度は企業と個人それぞれ新規加入があったが、今後も加入数を増やす取組をしていく必要がある。

#### 2. 信頼される学校

学校全体の取組を積極的にホームページで情報発信を行った。「あゆみ祭」は児童生徒数が増え、安全確保に懸念があったため、一般公開できなかった。今後は工夫をして地域や保護者に学校の様子を発信していく必要がある。

#### 3. 働きやすい職場づくり

メール等の活用により、会議時間は減少している。今後も、業務内容や量についてさらなる検討が必要である。

### 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の内容として、携帯電話が使用できない場合の安否確認、下校時の居場所確認等、学校と家庭で連携し取り組んでいく必要がある。</li> <li>・トコトコネットワークの加入率をあげていくために、学校だけでなく評価委員も含めて地域に発信してことで学校と地域の連携、関係性を深めていく。</li> <li>・教職員が相談し合える職場環境、組織づくりが大切である。</li> <li>・児童生徒の実態を捉えながら指導、支援に繋げていく取り組みは今後も継続していくことが大切である。</li> </ul>
----------------------------	---

### 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の実態を的確に把握し、つきたい力を共有しながら授業を計画し、ICT等を有効に活用して授業実践を行う。児童生徒について話し合う研修を行う。</li> <li>・避難訓練、防災学習を通して、災害時の対応に学校と家庭が連携し合いながら取り組む。</li> </ul>
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「トコトコネットワーク」の協力依頼や、HP等による情報発信、カフェトコトコの外部開放等を通じて、学校への理解を促進し、地域とともに児童生徒を育てる環境を整える。</li> <li>・学校組織の改編に伴い、スムーズな学校運営ができるよう、各分掌を中心に業務内容を精選し、ICT機器を活用し、仕事のスリム化を図っていく。</li> </ul>